

きくの害虫キクヒメタマバエに対する数種殺虫剤の防除効果

【1 成果の概要】

- (1)ME P乳剤(商品名 スミチオン乳剤)、プロチオホス乳剤(商品名 トクチオン乳剤)の処理区では虫こぶ中のキクヒメタマバエは幼虫の状態ですんでおり、成虫の羽化はほとんど見られません(図1)。
- (2)エトフェンプロックス乳剤(商品名:トレボン乳剤)処理区では羽化のために虫こぶから体を半分出した蛹の状態ですんでいる個体、羽化した後に死んだ個体が多く見られるなどほとんどの個体が生き残ることができません(図1)。
- (3)有機リン剤など同じ系統の殺虫剤でも、本種に対する防除効果は異なります。



キクヒメタマバエの成虫



キクヒメタマバエの卵



キクヒメタマバエの被害

(オレンジ色の部分)

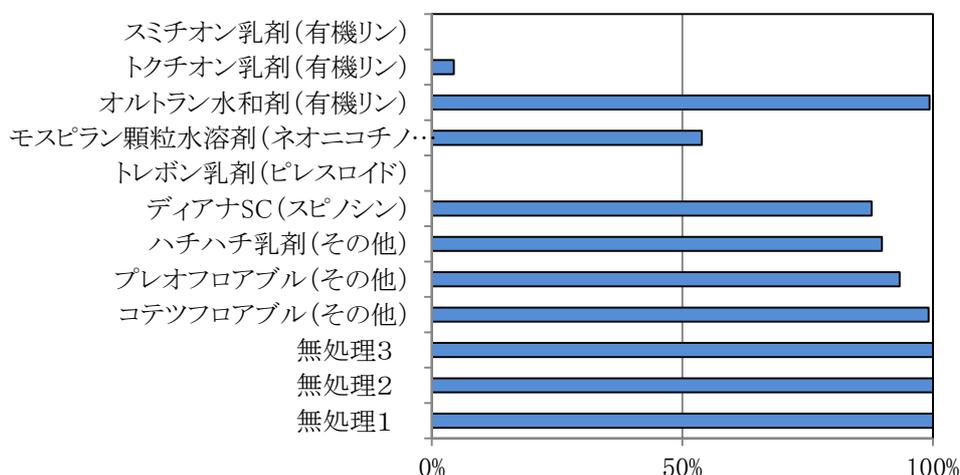


図1 各薬剤処理区におけるキクヒメタマバエの生存率 (%)

【2 留意事項】

- (1) スミチオン乳剤、トクチオン乳剤、トレボン乳剤はいずれの薬剤も「きく」には作物登録があり使うことができますが、キクヒメタマバエには適用はありません(2016年11月16日現在)。
- (2) 試験データは室内の実験で得られたものです。
- (3) 薬剤は株全体に十分な量をしっかり散布してください。